

令和4年度 校長より ③

5月17日(火)、県立スポーツセンターにおいて陸上競技大会が開催されました。雨天やコロナのため3年間実施できていませんでしたので、全ての生徒にとって初めての経験となりました。時折小雨が続く状況もありましたが、そのような中でも生徒たちは皆、自己記録を目指して真剣に取り組んでいました。仲間を拍手で応援する姿や、運営のために責任感を持って行動する姿も見られ、生徒たちからは高校生としての自覚と誇りを感じることができました。今後も様々な行事を通じながら、少しずつ成長して行ってほしいと思います。

5月23日(月)から6月10日(金)まで、3週間に渡る教育実習が行われました。今年度は33期と34期の11名の先輩が、国語、英語、社会、理科、音楽で教鞭を執りました。若さ溢れる授業により新鮮さを感じた生徒も多かったと思います。また、この期間には、各学年で進路説明会や進路講演会なども実施されましたので、生徒たちにとっては実習生の姿を目の当たりにしながら、自分の将来を考えたり決めたりするよい機会になったものと思います。モラトリアムは長い人生の中で大切な時間となりますが、高校時代の限られた時間の中では、時に流されて過ごしたい気持ちを自身の力で抑え、次の段階にシフトさせていくことが如何に大事であるかということに、生徒たちに早く気づいてほしいと思います。

6月に入り、茨城県でウエイトリフティング同好会、群馬県で剣道部の関東大会が開催されました。各県の強豪校が集まる中、選手たちは精一杯のパフォーマンスを発揮したとの報告を受けました。また、4日(土)には泉区文化センターで演劇部の定期講演会が、12日(日)には鎌倉芸術館大ホールで吹奏楽部の定期演奏会が開催されました。卒業生、保護者、地域の方々などの沢山の方々にご参加いただいた中で、生徒たちは自分たちの思いを伝えようと生き活きと演じていました。顧問や指導者の指導の下に、部員一丸となって目標に向けて取り組んだ経験、その過程で得ることのできた体験や心象は、生徒の人格形成に大きな影響を及ぼすと思います。そして、大きな結果を残すことも大切ですが、日々の活動の中に部活動の価値や真髄があります。部員一人ひとりが自身の志にプライドを持ち、時に辛い経験を乗り越えながら3年間最後までしっかりと取り組んでほしいと思います。

6月17日(金)18日(土)は白帆祭(文化祭)が行われました。今年度もコロナ対応を万全にしながら、「しらぼんぶ」(有志の実行委員会メンバー)が長時間かけて全体の企画を練り、大船高校らしいルールを取り決め、各団体との連絡調整を繰り返しながら当日を迎えました。開会式で軽音楽部の演奏があったり、閉会式後に後夜祭を行ったりするなど、今年度は昨年度以上に充実した内容で開催することができました。「しらぼんぶ」の活躍もあり、生徒たちは自分たちの活動を通して、連帯感、充実感、達成感などを感じることができたのではないかと思います。お互いを認め合い、自分自身も称えることのできるこうした経験は、生徒の人格形成の一助となり、生徒たちを自立・協働・創造のできる人物へと成長させてくれると思います。生徒一人ひとりが、学校行事等を通じて貴重な経験を重ねることができるよう、今後も取り組んでまいります。

令和4年6月

神奈川県立大船高等学校 校長 幸田 隆